令和４年度　第１回伊勢原市環境対策審議会　会議録

〔事 務 局〕　環境対策課

〔開催日時〕　令和４年８月１８日（木曜日）午後２時から４時１０分まで

〔開催場所〕　伊勢原市役所　２階　２Ｃ会議室

〔出 席 者〕

（委　員）杉山委員（会長）、武藏委員（副会長）、藤本委員、南澤委員、宮垣委員、濵田委員、河内委員、新谷委員、木村委員、大木委員、立道委員

（事務局）髙山市長、田中環境対策課長　外２名

〔公開可否〕　公開

〔傍聴者数〕　０人

〔審議の経過〕

１　開　会

２　第三次伊勢原市環境基本計画の諮問

市長より、第三次伊勢原市環境基本計画について意見を求める諮問がされた。

３　市長あいさつ

４　議題

（１）第二次伊勢原市環境基本計画令和３年度報告（案）について

事務局より、第二次伊勢原市環境基本計画令和３年度報告（案）について説明の上、審議された。

（２）第三次伊勢原市環境基本計画（素案）について

事務局より、第三次伊勢原市環境基本計画（素案）について説明の上、審議された。

（３）その他

５　議題（１）に対する意見等

（委員）１５ページの「河川 BOD 環境基準の達成」について、BOD の単位が不明である。

（事務局）mg/ℓなので追記する。

（委員）４０ページの「市街化区域内の緑被率の増加」と「市民１人当たりの公園面積の増加」は相関関係があるのか。

（事務局）公園内の緑化も緑被率に含めているため、相関関係はある。

（委員）この報告書にゼロカーボンシティに係る施策は含まれるのか。

（事務局）この報告書は前計画に基づくものなので、含まれない。令和５年度から始まる次期計画には、２０５０年ゼロカーボンシティを見据えた取組を記載する。

（委員）５ページの結果の一覧表について、市民に見てもらうのであれば、分かりにくい印象がある。所管課は不要ではないか。見てもらいたい箇所を強調する等の工夫が欲し

い。

（事務局）結果の一覧表については、過去審議会でも意見があり、それを踏まえた形で資料を作成している。次期計画も含めて、見せ方については改めて検討をしたい。

（委員）先日、学校の机に間伐材を使う取組の記事を見た。こうした新しい取組はこの報告書に含まれないのか。コラムやトピックスといった形で、積極的に記載してはどうか。

（事務局）今回の報告書には含まれないが、御提案のような形で記載するようにしていきたい。

（委員）時代が変われば目標数値に対する考え方も変わると思う。評価の参考となるよう、このような取組は、次期の計画でもできる限り集計して残すようにして頂きたい。

（委員）目標として電気自動車の台数があるが、電気自動車の現状について知りたい。

（委員）２０３５年を目処に、新車販売の１００％を電動車等にする動きがあるが、現在の電気自動車の販売台数は全体の１％にも及ばない。各自動車会社では、新しく電気自動車の車種を発表しており、これは世界的な動きでもある。

　電気自動車の課題の一つに、走行距離がある。この課題解決に向けて、リチウムイオン電池に代わるものとして、全個体電池の開発を行っており、実用化されればガソリン車よりも走行距離が伸びると考えられている。こうした背景もあるので、今後飛躍的に普及していくのではと考えている。

（事務局）電気自動車の普及にあたり、行政として取り組むべきことはどのようなことが考えられるか。

（委員）国の補助金と併用して使用可能な、自治体独自の優遇措置を用意して頂くのが効果的と考える。

６　議題（２）に対する意見等

（委員）環境基本条例では、主体に旅行者その他滞在者が含まれている。他の自治体と比較しても珍しいとは思うが、計画にこれについての反映がないように思う。

（事務局）今後新東名の関係で、市外から訪れる方も増えてくる。滞在される方にも御理解いただけるような計画となるよう検討したい。

（委員）緑化の目標達成が芳しくないのが気になっている。現計画では、市街化区域内のみを対象としているが、市全域の緑化をどのように評価していこうとしているのか、市としての考え方をはっきり示していただきたい。

（事務局）広域幹線道路ができたことで、市街化調整区域の緑化にどのような影響を与えたかしっかり評価していく必要があると考えている。緑の基本計画と整合を取りながら、まずは現状把握を進めていきたい。また、大気汚染対策としての緑化は、今後電気自動車が増えることも考慮する必要がある。

（委員）新東名高速道路周辺の植樹が予定どおりに進んでいないと聞いている。こうしたことについても市でしっかり進捗管理をしていただきたい。

（委員）ごみの減量化は重要な取組であると考えている。しっかりと進めていただきたい。

（事務局）家庭ごみについては、組成分析によると食べ残しや野菜くず等が最も多く、その次に紙ごみが多い。平成２９年１１月から草木類については、資源化するよう分別回収を行っている。このような取組で燃えるごみの削減を進めている。

（委員）カーボンニュートラルの推進は、重点取組と分かるよう色等を変えて標記してはどうか。また、目標の中に「対策」という言葉があるが、目標としてはなじまないように思う。

（事務局）それぞれの大目標の中で施策を講じていくことになるが、目標の数値化が難しいものもあり、対策という表現をしているものもある。分かりやすい表現については引き続き検討をしていきたい。

（委員）カーボンニュートラルを目指すにあたり、電動車の導入を進めていくとのことだが、自転車や公共交通機関の利用促進も進めていくべきだと考える。

（事務局）公共交通機関の利用促進については、目標として掲げているが、どのような指標にするべきか担当課と協議を行っている。また、物流については、宅配を１回で受け取ることも有効であり、普及啓発等を行っていきたい。

（委員）２０３０年に向けたCO2削減について、取組についての記載はあるが、削減をどのように積み上げていくのか数値に関する記載がなく、議論をしにくいと感じている。

（事務局）現状としての課題分析を中心に記載をしている。CO2 削減数値に関する積み上げは、現在検討しているところである。

（委員）地域再エネの地産地消とあるが、具体的にどのような内容か。

（事務局）地域で FIT 発電をしている発電所由来の環境価値を集約し、既存の電力メニューと合わせることで実質CO2フリーの電力メニューとして、市内に供給することを検討している。

（委員）このような電力を使用することは企業価値の向上にもつながると考えるので、事業者との連携について検討を進めてもらいたい。

（委員）専門的な用語が多く使用されているため、用語集をつけた方が良い。

（委員）素案の中で、目標数値が検討中としているものが多く見受けられる。事務局は早急に担当課と調整し、取組含め内容を確定していただきたい。

（事務局）先ほど御意見のあったCO2排出削減の試算と合わせ、修正素案の段階では数値を入れた案をお示ししたい。

７　閉会